

第21回岡山もも・脳ネット運用会議 議事録

開催日時：平成22年6月25日（金）19：00～20：00

開催場所：岡山赤十字病院 センター棟4階 研修室

出席者：赤磐医師会病院（福島Ns、藤野Ns、小幡Ns、道越MSW）

泉クリニック（秋山PT）

岩藤クリニック（小林）

大杉病院（中川PT、堀尾PT、佐藤MSW）

岡山医療センター（大森Dr、島谷Ns、川崎Ns、渡利PT、木戸MSW）

岡山協立病院（原田Dr、丸山Ns、清水OT、岩木MSW、中山CM、志渡澤CM、宗定CM）

岡山旭東病院（湯浅Ns、片岡PT、片岡MSW）

岡山光南病院（西崎Dr、内山Ns、齋藤MSW）

岡山済生会総合病院（藤田Ns、杉山Ns、遠藤PT、村藤PT、新居事務）

岡山西大寺病院（笠井Ns、櫻井PT、石井MSW）

岡山市立市民病院（梅田Ns、大河PT、菊井PT）

岡山赤十字病院（井上Dr、片岡Dr、三宅Ns、山田Ns、徳永Ns、三宅Ns、山崎Ns、森宗Ns、石津Ns、山本Ns、秋山Ns、安松Ns、植田Ns、石田PT、小幡PT、工藤ST、原田事務、川井事務、土居事務、内藤MSW、石原MSW、田村MSW）

岡山赤十字病院玉野分院（四方MSW）

岡山大学病院（出口Dr）

岡山中央奉還町病院（小島Dr、宮島OT、谷本MSW）

岡山東部脳神経外科岡山クリニック（柏Ns、河野PT、石田MSW、安井事務）

岡山東部脳神経外科東備クリニック（秋房PT、藤原PT、三角MSW）

岡山東中央病院（佐藤OT、戸田事務）

岡山リハビリテーション病院（森田Dr、坂本Ns、吉村Ns、荒尾PT、松村MSW、児玉MSW、松尾歯科衛生士）

岡山労災病院（小倉Ns、石田Ns、荒神PT、松下MSW）

おまち整形外科医院（仁科PT、井上PT、西CM）

かとう内科並木通り診療所（信正Ns、猫島PT、村上OT、横山MSW）

川崎病院（三宅Ns、武田Ns、田中Ns、今田事務、額田事務）

吉備高原医療リハビリテーションセンター（原之園Ns、浜岡OT）

健康づくり財団附属病院（内田PT）

児島中央病院（槌谷PT、矢敷MSW、犬東事務）

越宗医院（越宗Dr）

済生会吉備病院（益岡 Ns、奥田 PT、岩藤 MSW、阿部 MSW）
 さとう記念病院（国政 MSW、大田 MSW）
 佐藤病院（大坂 Ns、山根 Ns、金光 PT、宇民 MSW）
 重井医学研究所附属病院（梅谷 PT、平松 MSW、田口事務）
 高梁中央病院（新山 Ns、枝本 PT、荻原 MSW）
 玉野市立玉野市民病院（槌田 Ns、藤岡 OT、佐藤 MSW）
 たまメディカルリハビリテーションクリニック（野口事務）
 藤田病院（小林 Ns、赤木 PT、角房 MSW）
 真壁クリニック（佐藤 Ns）
 宮本整形外科病院（山田 Ns、川山 PT、吉房 MSW）
 竜操整形外科病院（赤井 Ns、大本 Ns、北 PT）

<在宅ワーキンググループ>

ケアプランサービスあさひ（猪井 CM、西山 CM）
 ケアプランサービス旭東（丸田 CM）
 コープケアプラン倉田（桑田 CM、中山 CM）
 サンヨー薬局（井手薬剤師）
 歯科医師会（山本 Dr、角谷 Dr）
 創心会居宅介護支援センター岡山（出井 CM）
 晴れのくに薬局（松永薬剤師）
 備前保健所（二宮 Dr、野山保健師、梅島保健師、井上保健師）
 備前保健所東備支所（吉田、那須）

計 47 施設 150 名（敬称略・五十音順）

医療関係：38 施設 134 名

在宅グループ：9 施設 16 名

①運用状況報告

・大腿骨頸部骨折パス（岡山日赤：片岡 Dr）

自宅において独歩・杖・歩行器での歩行が自立していた患者を対象にデータをまとめた。

	連携	連携外	施設	自宅	パス外
日赤	9	2	0	0	14
国立	22	7	0	2	1
労災	22	0	2	12	12

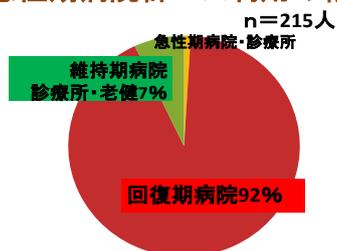
济生会	17	0	0	0	44
旭東	14	6	9	4	0
岡山中央	4	1	0	1	5

<回復期病院>

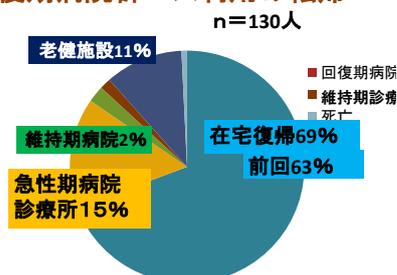
	転院(急性期)	転院(療養)	施設	自宅
岡山リハ	0	0	0	8
佐藤	0	0	7	6
藤田	0	0	1	10
岡山光南	1	0	2	5
中央奉還町	0	0	1	3
玉野市民	0	1	0	4
岡山協立	0	0	0	2
竜操整形	0	0	0	3
赤磐医師会	0	0	0	2
かとう内科	0	0	0	4

・脳卒中パス（岡山日赤：井上 Dr）

急性期病院群パス利用の転帰



回復期病院群パス利用の転帰



連携パスの利用率は急性期 29%、回復期 47%。

急性期病院から回復期病院、維持期病院への転院のうち連携パス利用率は、それぞれ 96%、27%となっている。

回復期病院の在院日数は全患者 79 日に対して、パス使用患者は 96 日と延長。

②会議の運用形態について（岡山日赤：片岡 Dr）

運用会議の開催日程について、2月、6月、10月の年3回で、基本的には第4金曜日
に開催予定とする。次回は10月29日第5金曜日と変則的だが、岡山医療センターにて
開催予定。2月は、県の協力の下、大会場にて、研修会もしくは症例検討会と報告会とい
う形態で、6月は岡山赤十字病院にて運用会議を開催予定である。

また、会の運用方法や内容を中心となって協議するコアメンバーを募集する。ホーム
ページにて周知し、メールにてメンバーを募る。会議の開催については、2ヶ月に1回を
予定している。質問事項等あれば事務局にメールにて送信してもらい、コアメンバーで
その内容を検討し、メールで返信するか、もしくは運用会議にて報告する形をとってい
きたい。

③維持期の算定について（岡山光南：西崎 Dr）

- ・平成22年4月より、維持期医療機関においても地域連携診療計画退院時指導料（Ⅱ）
が算定可能となった。運用マニュアルとして小冊子を作成。また算定に際して、中四
国厚生局事務所の審査部に、維持期医療機関自体の届け出、急性期・回復期病院にお
ける連携維持期医療機関先の届け出が必要である。小冊子や、それぞれの届け出書類
の様式については、もも脳ネットホームページの資料室に掲載している。
- ・回復期病院の連携維持期医療機関先のリストについては、エクセルで作成したもの
をメールで送信する。→急性期病院が届け出をする際に、リストを作成しやすい。
- ・維持期医療機関への情報パスの運用については、しばらくはプリントアウトにて行う
予定。プリントアウトからCDへと行き渡った時点で、CD運用へと移行。
- ・オーバービューパスについて、患者氏名欄や維持期署名欄、日常生活機能評価点数欄
を追加したものを新しくホームページに掲載しているので、今後は追加後の様式を使
用してほしい。

④大腿骨頸部骨折パス書式について

（当日配布資料を参照）

- ・ファイルメーカーからエクセルへ、エクセルからファイルメーカーへ変換すること
も可能とした。両備より、変換手順について説明。
- ・日赤は、今後ファイルメーカーで運用していく。
- ・今後の質問は、メールにて、もも脳ネットの事務局に送信してほしい。

⑤その他

- ・NST アンケート（脳卒中）の集計について（岡山日赤：井上 Dr）

ホームページの資料室に集計結果をアップロードしている。

- ・研修会について（備前保健所：二宮 Dr）

維持期の医療機関の数がまだまだ少ないということ、維持期のクリティカルパスが十分に起動していないという状況のなか、今年度の在宅の課題として、在宅での医療連携をいかに重視していくのかということに重点を置いている。その対応として 2 つの方法を考えている。一つは、全体会議が行えるような場の確保である。医療連携を進めていくために、責任者レベルに集まっていただき、その状況について確認し、また方向性について検討していく必要がある。もう一つは、医療連携の進め方についての研修会の開催である。職種ごとの研修会も必要と考えており、いくつか予算枠に組み込んでいる。確定次第、担当者と連携を取り進めていく。

⑥次回開催日程

平成 22 年 10 月 28 日（木）19 時～ 岡山医療センター4 階 大研修室

（※会議後、日時変更）

⑦職種ごとの話し合い（医師）

- ・急性期病院の協議会について

t-PA 等治療の申し合わせや救急搬送体制等についての話し合いの場を設ける。次回の運用会議からのオプションとして検討中。

- ・コアメンバーの会について

10 月の運用会議に向けて、1～2 回の話し合いを行う予定。

- ・パスの運用について

Q：回復期病院に転院後、何らかの事情で急性期病院に戻り、再度同回復期病院に戻った場合、急性期病院から回復期病院に同一パスで戻ってよいのか。また、回復期病院に戻れなくなった場合、その患者の CD 等のパスはどうしたらよいのか。

A：コアメンバーの会でマニュアルを検討し、どこかに明記するようにする。

- ・大腿骨頸部骨折ファイルメーカーについて

Q：すべての急性期病院がファイルメーカーを使用するのか。

A：日赤の中で運用する。それぞれの病院については、各病院で検討。転院の際には、基本的にはエクセルで送るので、エクセルで返却してもらえばよい。

- ・歯科の連携パスについて

連携パスの運用の準備も整い、用紙等で連絡はしている。岡山中央病院からは OK の返事をもたらしているが、その他の病院からはまだ声がかからない。何か問題があるのか、それともアナウンスがきちんとできていないのか。

→案内の文章を練り、メーリングリストで再度連絡する。

- 今後の資金運営について

竜操整形外科病院の宮城 SE に無償で医療者用パスを作成していただいていることについて、日赤と医療センターの話し合いで、しかるべき報酬を支払うべきであるという結論に至った。本年度については、県内の医療連携について、県で予算を考えてもらっている。しかし、来年度以降については、県レベルでの予算検討の見込みは薄い。NPO 法人を設立し、様々な方面から協賛金を集金するというようなことも一つの方策ではあるが、今後、具体的に資金面の運営についても考えていかなければならない。

(書記：田村)